



興讓館野球部OB総会 平成27年8月15日 於ホテルサンルート米沢

興讓館野球部OB会 会報

第 25 号

■発行日／平成27年12月10日(木)
 ■発行者／小 野 隆 夫
 ■発行所／〒992-0054
 米沢市城西4-4-16
 井 上 恭 男
 ☎ 0238 (22) 4078
 ■印 刷／(株)羽陽印刷
 ☎ 0238 (23) 0467

会報25号に 寄せて



興讓館野球部OB会長

小 野 隆 夫

ラクビーのワールドカップでランキング14位の日本が4位の南アフリカに逆転勝ちしたり、体操の世界選手権で6連覇中の中国を破り日本チームが団体優勝するなどスポーツ界では我々を喜ばせてくれる事が多くあった年でしたがOB会員の皆様におかれましてはつつがなくお過ごしのことと拝察いたします。

さて、我が野球部OB会としては今年度も通常の事業を粛々と実施することが出来たものだと思っております。

そんな中で、今年度の総会も3年前の規約改正(6月第2土曜日を8月のお盆の時期に)により8月15日の開催となりました。参加者は昨年より少なく25名でした。昨年は6月から8月に移した効果があらわれ40名ほど、しかも若い方が多く参加していたしましたが残念ながら今年もというわけにはいきませんでした。人数は少数でも内容的には充実した総会であったと思います。

役員の改選の年でしたが、今まで副会長をしていた菅野(旧姓・吉田)武巳氏が一身上の都合で退任され、新しく理事の遠藤 敬氏(昭和45年卒)が就任しさらに若い世代の代表で佐藤 勝治氏(平成14年卒)に理事をお願いいたしました。会長、事務局長等今までの役員の方には継続してお願いし総会の承認をいただいたところですが、菅野氏には長い間大変ご苦勞様でした。

総会のなかで若い会員の方から総会の案内状に当日学校で行う現役とOBの試合のあることを通知してほしい旨の発言があり次年度から入れることにしました。数年前から卒業の時に実施しているOB会への入会式なども例年通り実施しましたが卒

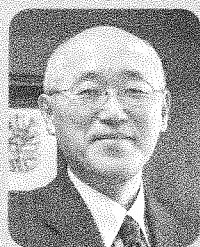
業生全員3年間の練習の中からいろいろ素晴らしい体験を得ているように感じました。

また、例年実施している興讓館部活OB連合主催のOB大会も11月20日に行われましたが今年には興讓館「部活のあゆみ」発刊記念大会として行われました。わが野球部OB会としてはすでに部創立100周年に記念誌を作成していますのでその中から一部分を抜粋して記載していただきました。1部2,000円での販売です。次の総会に準備したいと思います。

最後になりますが、会費の納入の減少傾向とか、総会への参加者の数の事とか、500通以上出している案内に半数弱の返事しかないことなど、何とかしなければという課題もたくさんありますが、何の問題もない会というのもまたありえないと思いますので一つ一つ皆様のご協力を得ながら少しでも前に進めていきたいと思っております。

そんな意味でも会員の皆様で、会の運営等でなんかご意見ご要望等がありましたら是非事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



ご挨拶

校長 岸 順一

野球部OB会の皆様には、常日頃より本校野球部へのご支援をはじめ、教育活動全般にわたりご理解ご協力を賜り衷心より御礼申し上げます。

私も本校出身ですが、高校時代を振り返り思い出すのは「打てや打て米興の選手 鉄棍もて思うがままに」という野球部の歌です。今でも全フレーズ歌うことができます。当時の厳しい応援歌練習で覚えたせいでもあるでしょうが、力強い歌詞と独特のメロディー、そして、なんと言っても全校応援で全生徒が心を一つにして歌った歌だからだと思えます。真夏の炎天下、暑さを忘れ必死にプレーしている級友を声をからしながら応援したことが記憶に残っています。

教員として学校に勤務してからも、野球全校応援は生徒の連帯感や学校への帰属意識を高める大変有効な行事と感じてきました。夏の甲子園県予選では大勢の卒業生がテレビやラジオで母校を応援し、直接球場に駆けつけてくれる方もいます。中にはかなりご年配の方も見かけます。卒業生の母校に対する思いや卒業生同士の絆を深める機会ともなっているのでは

ないでしょうか。

本校の歴史を紐解く過程で、野球部の創設は明治34年と大変伝統ある部であると知りました。興讓館史話には「大正十二、三、四年は米中の第一次黄金時代だった。このあと、昭和十一年までの十四年間に東北大会、奥羽大会に出場八回、決勝に出ること二回、県予選優勝三回という好成績で、第二次黄金時代を築いた」(史話P154)と書かれています。現在と比較して、学校数は少なかったでしょうが、それでも本校野球部がいかに活躍していたかがわかります。部活動の活躍は学校に活気をもたらしてくれ、また、部活動は生徒個々にとっても先輩後輩を超えた絆を育むだけでなく、コミュニケーション力、忍耐力、自主性、責任感といった人生にとってかけがえのない大切なことを学ぶ機会です。

現在も、生徒達は伝統ある野球部の歴史を引き継ぐため、限られた時間を有効に使い集中した練習を積み重ね「栄光への道」目指して努力を続けております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



私の趣味

(昭和43年卒)

川野部 雄二

こんにちわ、43年卒の川野部雄二と申します。現在66歳、千葉県柏市に住んでいます。私は高校2年の時、利き目が極端な右目なことから、左打者に転向しました。左打席に立つと、利き目(右目)がボールに近くなりとても見やすくなりました。このためバットコントロールが上手になったと信じています。以来、右利きの選手が左打者に転向した理由に興味を持っています。掛布、松井、イチロー等の名選手に左打者にその理由及び利き目について伺ってみたいと思っています。ご存知の方がいれば教えてください。

私の趣味は2つ、マラソンと太極拳です。マラソンは50歳の時、当時住んでいた那覇市で行われる那覇マラソンに感化され始めました。那覇マラソンは3万人

もが走り、街全体が盛り上がる大会です。以来、転勤とともに全国の街(札幌、釧路、東京、広島等)を走ってきました。走りながらその街特有の雰囲気、匂い、音などを味わっています。特にお寺の鐘、チンドン屋等思いがけないのに出会ったときは感激です。今年の城下町マラソン(米沢)では館山の真赤なリングに感激しました。なお、この大会で60歳以上の部で2位に入り、生涯初めての賞品を頂きました。

もうひとつの趣味は太極拳で、30数年に当時の朝の子供向け番組を見たのが動機でした。以来どっぶりとはまり込んでいます。太極拳はゆっくり動いているので健康増進のためのスポーツと思われるのですが、本来は空手や合気道と同じく相手との攻防を前提とした

本格的な武術のひとつです。動作の途中でも絶えず相手を意識し、架空ながら押したり引いたりしています。太極拳の達人ともなれば簡単に相手をねじ伏せたり、数メートル飛ばしたりします。ただ、日本では武術という認識が少なく、健康増進や大会で高得点をだすことに重点がおかれており、残念です。

太極拳は奥が深く段階を踏んで練習していかなければなりません。最初は一連の動作（套路と呼んでいます）を学びます。約1〜3年ほどかかります。次の段階は動作の意味、攻防を理解していきます。次は動作と意識、呼吸を合わせてい

きます。ここまでくればとても気持ちよく練習ができます。次の段階は全身の関節、筋肉を緩めて動くことが求められます。最終的には意識で身体を動かしていきます。力でなく意念で身体を動かします。達人の域です。

小生の技量はまだ二合目あたりで、まだまだ練習が足りないと感じております。太極拳の本質に少しでも近づきたく、今年米沢に小さいながらも太極拳ができる家を新築しました。太極拳に興味のある方、是非一緒に太極拳の奥義を覗いてみませんか。
連絡先…090-4996-8920



我が「米沢興讓館野球部」 つなぐ伝統・つなぐ想い

（昭和55年卒）

堤 和 司

主審の右手が高々と拳がり「ストライク。バッターアウト。ゲームセット！」

これが我々（55年卒）の米沢興讓館野球部として迎えた最後の瞬間でした。

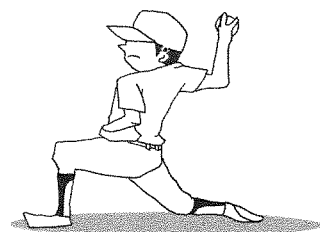
今回2年先輩である井上事務局長より原稿依頼を受け「現役時代補欠であり、全く目立たない私の様なOBで良いのだろうか」とも考えましたが、逆にこの機会を与えていただいた事に感謝し、思い付くまま自由勝手に書かせていただきましたと思います。

先ず、副題にしました「つなぐ伝統・つなぐ想い」ですが、これは今年度の同窓会総会・懇親会のサブテーマとなった言葉です。私も筆頭幹事学年として携わり、そのテーマに込める思いが今回の原稿内容と重なり使わせていただく事にしました。

私と野球の関わりは、小学生時代に遡ります。物心ついた時から、学校が終わると毎日のように自宅前の神社で草野球、週末は父親と軟式ボールでキャッチボールをしておりました。草野球では自他共に認める「名選手」だったと思えるのですが、中学で野球部に入ると3年生まで万年補欠でした。それも守備位置

はショートだったはずが、偶に出る試合ではセカンドかライト。まあ、今（いや、当時から分かっていたはず）思えば、センスが無かったんだと思います。高校進学先は興讓館しか頭になく、お陰様で何とか入学する事が出来ました。

高校に入学すると、クラスに於いて様々な担当が決められます。担任の先生が何を思ったか「応援団には、中学時代の調査票を見て君と〇〇君にやってもらおう事に決めました」と。エッ、応援団。それは無理」と思いましたが、直ぐには断る理由も見当たらず…。そして、あの（若い方は何の事か分からないと思いますが）地獄の一週間を私は応援団として過ごす事になりました。聞くところによると、今は「校歌」「栄光への道」等3曲ぐらいしか覚えなくて良いとか：（違ったらご免なさい）。その当時は「校歌」「自治会歌」若鷺の歌、凱歌、栄光への道、野球部の歌、城北護る、等々、にわか応援団の



恐い先輩方が見守る中、毎日数曲をみっちり叩き込まれました。今思えば良い思い出ですが、当時の応援団顧問だった堀江昭先生からは「校歌・応援歌練習は興讓館伝統の一つであるが、脅かし、威圧、罵声等を排除し、効率良く統制のある練習を求め、日数・時間を制約したのがこの時代から。つまり、興讓館全校応援新体制の、初年からの体験学年で、その善し悪し、全てを経験（テストケース）した学年で大変思い出深いものがあります」と我々55年卒向けにメッセージを送っていただいた事があります。

話は野球部から逸れましたが、当時「野球部（運動部）は応援団にならない」とい



う暗黙のルールがあり、私は野球部に入る事で応援団からは開放されました。その後、応援団とは切っても切れない関係になり、また大変勇気付けられる事になります。

興讓館野球部には何の迷いもなく入部しましたが、周囲を見ると新入部員全てが中学時代のレギュラーメンバーであり、補欠で入部したのが私だけだったようです。スタートから無謀だったのかもしれませんが、私は試合に出る事よりも興讓館野球部に所属している事が当たり前であり幸せだったのだと思います。その時は未だ分かっておりませんが、この入部した事が、今の私の糧になっているのも事実です。

興讓館野球部1年目、顧問の先生は岩木部長・今英三郎監督でした。現事務局

長の井上恭男先輩が主将でした。私達1年生から見れば、3年生は神のような存在であり、気軽に話す事も出来なかったと思います。その時の記憶として残っているのは、(大した事では無いのですが)強制ではなく自主的に朝練習をするという時に私も出ていて、今監督が(私としては3年生で一番恐いと思っていた)佐久間先輩に「朝練は誰々が出ている?」と聞かれたのに対し「○○とか、堤とか」と言っただけだったのが、もの凄く嬉しかった事です。もしかすると未だ名前も覚えてもらっていないのでは、という時期だったので、感激した事を覚えています。

2年生になると、レギュラーを取る仲間も居りますし、殆どが背番号をもらいます。しかしながら、中学時代から万年補欠の私は夏の大会まで背番号はもらえず、スタンドから応援しておりました。岩木部長や今監督からすると「お前は欲がない。悔しくないのか」

という思いで歯がゆく見て居られたと思いますが、私の方は至って冷静というか、この仲間と野球の練習が出来、仲間の応援をする事で本当に満足しております。今時の若者に対して「温和しい」とか「草食系」とか言いますが、この時代の私も同じ様なものでした。この時の3年生は、夏の大会ベスト4という輝かしい成績を収めた自慢の先輩達です。飛び抜けた選手や身体の大きな選手が居た訳ではありませんが、抜群の総合力・チーム力だったと思います。この年は、米沢商業が強く、後にロッテに入団した江本選手や社会人野球に進んだ今井投手が居り、米沢勢同士の準決勝は地元の皆さんからすれば見応えがあり、期待も大きかったと思います。残念ながら先輩達は米商に破れベスト4、その米商も決勝で敗れ甲子園には行けませんでした。

いよいよ3年生。ようやく背番号14をもらう事が出来ましたが、ショートのレギュラーは2年生。途中、同期の控え外野手が私の不甲斐なさに奮起をし、レギュラーを狙うべくショートでノックを受けるという事もありました。この年は、鶴商学園(現鶴岡東)の君島投手・山形南の滝口投手・日大山形の中山投手が居り、結構注目されていた時代だと思っています。この年の想い出は、練習試合で私としては生まれて初めての「スクイズ」のサインを出され、思わずバットを引いてしまったという事がありました。当然、3塁ランナーはアウト、私は直ぐに交代という結果でした。当時のサインですが、スクイズだけは今監督ではなく岩木部長が出す事になっており「私が後を向いたらスクイズ」だったと記憶しております。本当かなあ。

最後の夏の大会(第61回高校野球選手権大会・山形大会)では、サードの佐久間主将が足の怪我をして出場できず、初戦の荒砥高校戦は私が出場しました。しかし、緊張しまくりに折角のチャンス(佐久間君には申し訳ありませんが)を逃してしまいました。その後、2年生の控えも出ましたが、ベスト8をかけた山形南戦では、1年生がサードを守りました。その試合のテレビ録画が残っておりませんが、それを見る度に悔しさが込み上げてきます。この原稿の最初に記した文章は、この試合の最終章であり、山形南の速球派エース滝口投手を引きずり下ろしながら、左腕軟投派の児玉投手を打ち込めず、延長14回4対3で迎えた我が興讓館の攻撃、ツーアウト、バッターは四番近野里美という場面、ツーストライク後、高めのボールを「ストライク」とコールされ我々の青春が終わった場面です。結果ベスト16に終わりましたが、本当に素晴らしい仲間と素晴らしい時間を過ごした時代でした。この後2年ぐらいいは先輩面して練習に顔を出しておりましたが、段々高校へも球場へも足が遠のいていきました。大学・就職が東京だった。

た事もありOB会にも疎遠でしたが、平成3年に県職員として地元米沢に戻り、その後平成21年に長男が我が母校興讓館の野球部に入ると、また私も係わる事になりました。息子がお世話になった3年間は、野球部の保護者として、保護者会長として応援やら選手の支援やらをさせていただき、興讓館野球部に携われる喜びを再び味わう事が出来ました。

部員の保護者という立場だけでなく、子供の現役時代（3年間）、若しくは精々同じ年代を過ごした後輩の居る2年後ぐらいまでで途切れてしまいます。しかし、私は野球部OBとして今後もずっと係われるという喜びや幸せを感じております。最近では、母校興讓館の応援は勿論の事、OBが監督をされている高校の応援にも出かけております。数年前のOB会懇親会で、駒形大先輩が「女学校（米沢東）にも野球部が出来た。その女学校には絶対負けるな」とご挨拶されま

した。私も母校興讓館野球部に勝って欲しい、甲子園に行って欲しいという思いは同じです。しかし、この興讓館野球部を巣立って、監督として頑張っていこうとする先輩・後輩の皆さんにも頑張ってもらいたい。私が娘の母校である米沢東高校では佐藤勝治先生が頑張って、同好会であった野球部を見応えのある野球部に育てております。最近は見ている楽しい野球をしてくれております。OBの皆様方にも少し広い心を持っていただき、当然一番の応援は興讓館として、次にOBの監督が居る高校も応援してみて下さい。

今年度の夏の大会、興讓館については「3回戦天童球場で応援するから必ず2試合勝ってくれ」という強い思いを込め、新庄へは行きませんでした。結果、初戦敗退ということ一度も直接応援できなかった事は非常に残念でした。その代わり…では無いのですが、7月11日県野球場に向き

ました。直接の目的は娘も一緒でしたので第3試合だったのですが、実は初めからOB監督のオンパレードだったんです。第1試合の山形商業対楯岡、この試合では私の息子も大変お世話になった楯岡高校吉田大治監督が率いております。（直接は関係ないのですが、山形の渋谷監督は我々の時代は日大山形の監督でした



三年生を送る会（H23年度）

のでノック姿にチョット感動、また歌丸選手は米沢出身）、第2試合は高畠村山産業、高畠高校もOBである丸山監督が率いているという事は情報を持っておりましたが、応援団席に見慣れた姿を発見、昨年度まで山形西でソフト部顧問だった福嶋なつみ先生もOB（後日談として、村産の第3顧問との事）、そして第3試合は新庄南対米沢東、米東の佐藤監督もOBです。更には、今年度「爽やかイレブン」としてチョット騒がれた左沢高校の土屋岳監督



OBとしての楽しみ

（平成11年卒）

園田直子（旧姓高橋）

私は大会のトーナメント表（普段はやぐらと呼んでいる）が好きです。興讓館を卒業して16年が過ぎる間に、程度の差はあるにせよ、応援したい高校が増えました。自分が教員として

勤めた高校、吉田前監督の異動先、高校時代の同級生が監督を務める高校、夫が勤務する高校…。大会が始まると、やぐらをプリントアウトし、それらの高校名にマーカーでしるしをつけ

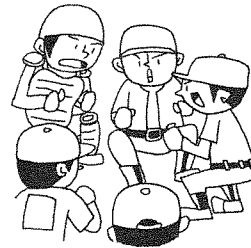
もOBなんです。昨年度までは新庄南の監督でした。ということで、この日に行われた試合は関係者が揃いに揃った応援し甲斐のある一日でした。
私の過去から今年度までを長々と記載させていただきましたが、今後もOBとして母校米沢興讓館野球部の応援は勿論、OBが監督をされている高校の応援も続けていきたいと思っています。未来も大いに楽しみます！
皆さんも如何ですか！

壁に貼る。春夏秋の大会、毎回の恒例行事。そして壁に貼ったやぐらを眺めながら、「今年はどんなドラマが待っているのだろう」と、胸が高鳴るのを感じるのです。

そして16年の年月は「甲子園」という場所がどれほど遠い場所かということも教えてくれました。6回勝つことが途方もなく難しいのです。それでもやはり母校の甲子園出場を夢見ないはずがありません。

私が高校在学中に、広報かなにかのインタビュー記事で小野教頭先生（現OB会会長）が「今一番ほしいものは？」の質問に「興讓館の甲子園出場」と回答なさっていたのを鮮明に覚えています。今はOBの立場でその気持ちがよくわかります。

甲子園はまさに「夢」舞台で、忙しい高校生にとっては現実的に捉えることが難しいかもしれません。でも、近道もなければ遠回りもない。練習の積み重ねの先にしか、甲子園はないの



です。細かい技術のことはわかりませんが、どんな意識で練習に臨むか、どんな工夫をするか、自分やチームを省みることができるか、このあたりが大事なんだろうと思います。後輩たちには、毎日の自分の精一杯が必ず目標達成につながると信じてがんばってほしいです。

今年の夏は産後ということもあり応援には行けませんでした。来年の各県大会は娘を連れて応援に行くつもりです。これからも楽しませてもらいます。

思い出と近況報告

（平成23年卒）

伊藤 亮 平

今年度から、宮城県白石市で小学校教諭として働いています。新社会人として過ごす忙しい日々の中にも新しい出会いがあり、その仲間や職場の先輩方と切磋琢磨する時間が、自身を成長させてくれるのを感じます。どんな時でも、新しい環境に身を投じることは不安と緊張の連続であると思いますが、そこで経験する様々な出来事が、今の自分に必要なことを教えてくれます。

高校に入学した時も、どこか似たような感情だったのを覚えています。私の高校時代は下宿生活でした。それまでとは大きく異なる環境に戸惑いながらも、クラスメートや、野球部の仲間と出会い、充実した日々を過ごすことができたと感じています。

野球部では、様々な経験を通して、身体的にも精神

的にも強くなることができました。それも、3年間で様々な先生方に指導して戴いたおかげです。同級生の仲間達にも沢山世話になりました。自分が悩んでいる時には話を聞いてもらい、気持ちたちが晴れない時には一緒に汗を流しました。部活終わりの長話は、今でもよく覚えています。

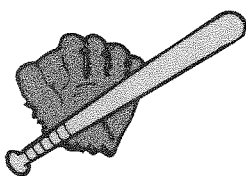
今年は高校野球100年の時でした。テレビなどのメディアでも取り上げているのを見ると、世の中の高校野球に対する関心の高さが伺えます。私の住む宮城県でも、今年の夏の甲子園やドラフト会議では大きな盛り上がりを見せていました。

高校野球は、見ている人を魅了する要素がたくさんあると思います。高校生の見せるひたむきな姿、あらゆることに全力で取り組む姿こそが、見ている人の心

を動かすのだと、常々思っています。同時に高校野球は、あらゆる人々に支えられているとも言えるでしょう。

野球部の後輩には、常に周りに助けられていることを忘れないで欲しいと思います。家族はもちろん、チームメイト、学校の同級生にだってきつと応援されています。そんな人達の支えのおかげで、高校野球の盛り上がりがあることを、ぜひ心に留めておいて欲しいと思います。

県外で生活する私ですが、母校の活躍を期待しています。困難や試練に立ち向かう、強い人が育まれる興讓館野球部の活躍を心からお祈り申し上げます。



今シーズンを振り返って

監督 多田貞春

今年は、1915年にスタートした高校野球が、100年目という記念の年でした（選手権大会Ⅱ甲子園大会は97回）。

高野連の調査資料によると、昨年度（H26年度）に高校野球部員数が17万人を超え、サッカーに負けずに野球人気は、高いようです（ただ、今年度は2年ぶりの減少のようですが）。その一方で、本校野球部は、昨年に引き続き入部者は減少してしまいました。残念ながら、置賜地区での野球人気は、サッカーに負けているようです。

今年の興讓館は、1年生7名（マネージャー1名）、2年生9名（マネージャー1名）、3年生11名（マネージャー1名）の計27人での活動となりました。また、新顧問として第三顧問に鈴木真理奈先生を迎えてのスタートとなりました。

チーム2015

〈秋季地区大会〉

◆1次予選

対 米沢工業 4―7

◆2次予選

対 置賜農業 12―3

対 長井 1―5

ご覧のように、昨秋の地区大会では、新チームのカラーも作り出すことができず、悔いが残る形での敗退となつてしまいました。新チームは、前チームが3年生中心のチームだったため実戦経験が乏しいとともに、チームの柱がいない状況でのスタートとなりました。

秋の悔しさを胸に、臥薪嘗胆の気持ちを持って、冬のトレーニング期を過ごしました。各ポジションのリーダーを中心として練習メニューの意味を考え、妥協することなくトレーニング

グに打ち込み、技術的にも精神的にも大きくなることのできたと感じました。

今春も、例年通りの福島日帰り遠征を計画していましたが、今年は天候不順のため、思うように実戦経験を積むことができませんでした。

〈春季地区大会〉

◆次予選

対 米沢東 16―4

対 九里学園 0―7

◆2回戦

対 米沢東 5―1

対 長井 2―0

◆2次予選順位決定戦対

対 長井工業 10―4

置賜地区3位で県大会へ

〈春季県大会〉

◆1回戦

対 山形南 4―14

昨秋出場することができなかった県大会へは、長井高校との接戦を制し、何とか出場することができました。しかし、県大会では、すべてにおいての「甘さ」を実感する結果となりました。

た。選手権大会まで、すべてのプレーにおいて「この辺」ではなく「ここ」にこだわって練習を繰り返しました。

〈全国高等学校野球選手権山形大会〉

◆1回戦（新庄）

対 新庄北 5―12
（8回コ）

このチームは、学年としてのまとまりがあり、1年生大会敗戦直後には全員が号泣しながらミーティングをするという野球に対する「熱い思い」のあるチームでした。エースの神尾は高校から投手を始め、冬場のトレーニング期を乗り越え、背番号1を掴み、また、3年夏に実力でレギュラーを掴んだ者もあり、秋からの伸びを見せくれましたが、私の指導も至らず、夏本番に結果を残すことはできませんでした。しかし、選手たちは、野球を通してかけがえない財産を得ることができたように思います。

現在3年生も、これまでの先輩方同様に、気持ちを切りかえ、高校生活の最後として、各々の目標に向かっての戦いに挑んでいます。

チーム2016

〈秋季地区大会〉

◆1次予選

対 長井 6―7
（延長12回）

◆2次予選

対 南陽 23―6
0―10
（6回コ）

対 長井

◆3次予選

対 米沢東 6―5
（延長15回）

対 米沢工業 3―6

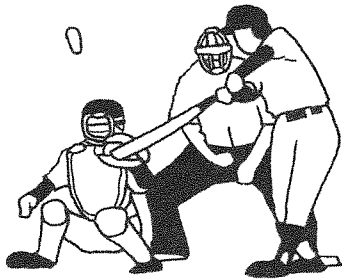
3年生11名が抜けて、16名となった新チームは、経験・実力とも厳しく、最後まで粘りましたが、昨年同様引き続き県大会出場を逃してしまいました。今年を考えると、秋に県大会出場チームと公式試合を経験しておきたかったのですが、実現できませんでした。

新チームの面々は、根本的に体の使い方ができず、基礎の基礎から徹底的に改善すべく、基礎力・体力強化のトレーニングに励んでいます。現3年生が、ひと冬の伸びを証明してくれているので、今年もしっかりと冬の時期を過ごしたいと思います。今年の新チームも、チーム力がまだまだです。来春、来夏に私立を倒して上位を狙えるようなチームになるべく、厳しく練習に取り組んでいきたいと考えております。

最後に・・・

今年の夏休みも、昭和46年3月卒の高橋憲治先生の工学院大学附属高校、昭和52年3月卒業の船山仁先生の春日部工業高校が、米沢へ来てくださいました。

また、今年は、興讓館野球部OBで本県高校野球に携わっていらっしゃる方々を交え、指導者交流会を開催させていただきました。野球を通じての人の輪を深く感じさせていただいております。本当にありがとうございます。



ございました。さらに、日頃よりOB会の皆様には、各大会の応援や練習試合等に駆けつけて頂きありがとうございます。また、物心両面にわたる多くのご支援を頂き、誠にありがとうございます。OBの皆様や多くの方々の声援が、野球部員の大きな力となっております。改めて感謝申し上げます。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

平成27年度米沢興讓館高等学校野球部名簿

監督：多田 貞春 部長：五十嵐 雄大 顧問：鈴木 真理奈

学年	氏 名	出身校	学年	氏 名	出身校	学年	氏 名	出身校
1	3年 小林 哲也	沖 郷	2年	安 達 稜 太	米沢7	1年	齋 藤 妙 子	高畠4
2	3年 神 尾 健太郎	米沢4	2年	島 貫 弘 成	川 西	1年	鈴 木 翔 太	米沢2
3	3年 川 部 滉	米沢2	2年	富 取 俊 馨	南 原	1年	高 橋 佳 介	川 西
4	3年 菅 野 瑞 紀	米沢2	2年	湯 村 慎 基	沖 郷	1年	鈴 木 耕太郎	川 西
5	3年 佐 藤 隆之介	米沢4	2年	伊 藤 真 至	米沢2	1年	山 口 暢 大	米沢3
6	3年 須 貝 太 郎	米沢2	2年	佐 藤 航 大	米沢2	1年	遠 藤 匠	米沢2
7	3年 鈴 木 琢 朗	米沢2	2年	中 山 雄太郎	米沢4	1年	山 木 大 輔	高畠3
8	3年 情 野 直 暉	米沢4	2年	我 妻 綾 香	米沢4			
9	3年 武 井 恒 介	米沢2	2年	梅 沢 謙 吾	米沢5			
10	3年 竹 田 秀 平	米沢1						
11	3年 遠 藤 海 歩	南 原						

事務局より

平成27年度

米沢興譲館野球部OB会総会

平成27年度OB総会は、去る8月15日(土)、恒例となりましたホテルサンルート米沢で開催されました。

平成26年度事業報告及び収支決算報告が行われ承認されました。役員改選後、27年度事業計画及び予算案が上程され、全て承認となりました。新役員体制の下、今後ともOB会活動が充実したものとなる様、頑張りたいと思います。年に一度の総会に、多くの会員が集えるような会となります様、事務局として運営してゆきたいと思います。

平成27年度 予算書

自：平成27年7月1日 至：平成28年6月30日

一般会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科 目	決算額	摘 要	科 目	決算額	摘 要
前年度繰越金	306,717	郵貯 57,858 信金 248,859	総 会 費	250,000	8月15日 ホテルサンルート米沢
維持会費	750,000	1口 5,000 150口 目標	総会準備費	180,000	総会案内 出欠葉書 等総会資料等印刷 記念写真郵送等
総会会費	200,000	総会出席者 40名 目標	激 励 費	35,000	昨年同様
卒業生入会金	33,000	H27年度 卒業生 11名	遠征支援費	100,000	春遠征支援
預金利息	283		会報発行費	150,000	会報印刷費 原稿依頼費用 会報発送費等
			OB連合会関係費	50,000	昨年同様
			役員会議費	50,000	役員会 年3回予定
			印刷事務費	60,000	封筒作成費等
			事務用品雑費	10,000	インクカートリッジ等 事務用品費
			特別積立金	200,000	特別会計へ
			郵便為替手数料	10,000	振替手数料 維持会費振替用 紙作成費用等
			予 備 費	195,000	
合 計	1,290,000		合 計	1,290,000	

特別会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科 目	決算額	摘 要	科 目	決算額	摘 要
前年度繰越金	1,157,125		次期繰越金	1,357,500	①
特別積立金	200,000	一般会計より			
預金利息	375				
合 計	1,357,500		合 計	1,357,500	

卒業生貸付金(2口)

単位：円

H22年度卒業生		100,000	
H23年度卒業生		98,000	
合 計		198,000	②

特別積立金+卒業生貸付金

次期繰越金 1,555,500 ((①+②))

平成26年度 収支決算書

自：平成26年7月1日 至：平成27年6月30日

一般会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科 目	決算額	摘 要	科 目	決算額	摘 要
前年度繰越金	281,176	郵貯 207,028 信金 74,148	総 会 費	188,920	8月15日 ホテルサンルート米沢
維持会費	670,000	1口 5,000 80名 134口	総会準備費	150,240	総会案内 当日総会資料印刷 記念写真郵送等
総会会費	170,000	総会当日会費 36名出席(内5名学生)	激 励 費	35,000	激励会費・激励費 25,000 保護者会 5,000
寄 付 金	10,000	渡辺 孝一 様	遠征支援費	100,000	春遠征援助金
卒業生入会金	42,000	H26年度 卒業生 14名	会報発行費	148,892	会報印刷費 原稿依頼費用等
預金利息	35	9月11日 11 3月15日 24	OB連合会関係費	45,066	負担金 20,000 総会・引継会費 24,000
			役員会議費	46,762	役員会 年2回 招湯苑 役員案内状代含む
			印刷事務費	38,880	封筒代
			事務用品雑費	3,564	OB会ゴム印代
			特別積立金	100,000	特別会計に積立
			郵便為替手数料	9,170	郵便為替払込料
			次期繰越金	306,717	郵貯 57,858 信金 248,859
合 計	1,173,211		合 計	1,173,211	

特別会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科 目	決算額	摘 要	科 目	決算額	摘 要
前年度繰越金	1,056,871		特別積立取崩	0	
特別積立金	100,000		次期繰越金	1,157,125	①
預金利息	254				
合 計	1,157,125		合 計	1,157,125	

卒業生貸付金(2口)

単位：円

H22年度卒業生		100,000	
H23年度卒業生		98,000	
合 計		198,000	②

特別積立金+卒業生貸付金

次期繰越金 1,355,125 ((①+②))

上記、収支決算について帳簿等を監査の結果、その内容は正確であり適正であったことを認めます。

平成27年 7月23日

監 事 安 達 治 雄

監 事 遠 藤 敬



平成26年度 OB会会費納入者

(平成27年6月30日現在) (50頁目)

5,000円	10,000円	25,000円
池村義人	木戸 拡	袖山 修
伊藤良久	小関啓一	20,000円
今井文雄	小林徳勇	大武清夫
江川栄助	駒形 衛	木村尚武
遠藤俊弥	近野洋一	15,000円
大谷有平	齋藤敬二	小野隆夫
大場善次郎	佐藤 茂	菅野武巳
亀田雅之	佐藤広吉	高野 譲
小金英悟	佐藤 宏	高橋憲治
小関優子	嶋貫仁一	10,000円
後藤彰三	鈴木四朗	安達治雄
近 菜惟子	鈴木雅満	五十嵐俊隆
齋藤 勇	武田忠一	井上英雄
齋藤隆志	竹俣兼一	井上 寛
齋藤良一	土屋 岳	井上恭男
酒井 功	長谷部大典	岩間嘉昭
佐藤勝治	廣居忠彦	遠藤 敬
佐藤啓明	廣居康夫	大越路可
島貫昌博	横沢賢一郎	太田 浩
鈴木啓一	吉田大治	小川 洋
情野 亮	吉田直史	小野 修
園田直子	我妻弘一	川北正昭
高橋直也	渡辺孝一	川野部雄二
高橋 廣		
高橋昌義		
高山 忠		
武田昌子		
田中久雄		
土田武雄		
堤 和司		
長谷川吉郎		
樋口貴人		
古山陽佑		
山川広治		
山田和男		
山村寿雄		
山村 嘉弘		

以上のように、平成26年度の維持会費は、6月30日現在、80名の方から67万円頂きました。ありがとうございました。

なお、お忙しくてお忘れになっていらした方は、改めて年会費納入振込用紙を同封させていただきます。

ので、平成27年度維持会費として
一口 五、〇〇〇円にて
(複数口大歓迎)

よろしく
おねがいします



野球部OB会新役員

役員名	氏 名	卒業年
顧問	駒形 衛	S25
	岩間嘉昭	S28
会長	小野隆夫	S34
副会長	高野 譲	S29
	遠藤 敬	S47
兼事務局長	井上恭男	S53
	栗林雄二	S51
	荒沢芳治	S54
	大越路可	S54
事務局補助	我妻弘一	S61
	吉田大治	H5
	佐藤勝治	H14
監事	安達治雄	S33
	齋藤隆志	S42

学年代表幹事

卒業年	氏 名
S44	布川 裕行
S45	高 梨 衛
S46	永 井 隆
S47	遠藤 敬
S48	宇津江 信彦
S49	池内 正一
S50	千葉和男
S51	栗林雄二
S52	大河原 敦
S53	井上恭男
S54	大越路可
S55	後藤利明
S56	山田和男
S57	
S58	中沢秀隆
S59	吉田直史
S60	菅原 浩
S61	後藤 篤也
S62	井上武司
S63	村田和彦
H1	鈴木雅満
H2	渡部 晃央
H3	高橋 学
H4	地主 忠亮
H5	吉田大治
H6	菊地 芳宏
H7	井上友和
H8	
H9	遠藤 謙司
H10	加藤法弘
H11	齋藤 慎太郎
H12	高橋 優子
H13	鈴木 宏治
H14	嘉藤之浩
H15	佐藤勝治
H16	戸田 怜
H17	辻 琢允
H18	淀川 竜也
H19	菅野英志
H20	福島 なつみ
H21	土屋 岳
H22	井上 尚人
H23	小関直紀
H24	
H25	
H26	

編集後記

事務局となり、3号目のOB会報を発行することができました。原稿をお願いしたOB各位には、快く引き受けていただきありがとうございます。お陰様で、素晴らしい会報ができたこと、自画自賛しております。今後とも、多くのOB会

員様に、思いを寄せていただけ様、よろしくお願ひ申し上げます。会長からのご紹介がありました。興譲館「部活のあゆみ」が今年発刊されました。次回、総会にも準備いたします。早めにお手元に欲しい方は、事務局までご連絡ください。

事務局

〒992-0054

米沢市城西4-4-16

井上 恭男

PS 現在事務局の把握できているOB会員様所在地は500名を超えております。今後、資料整備に精度をあげて行きたいと考えております。